

大学等名	名古屋短期大学
プログラム名	名古屋短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

保育科

③ 修了要件

プログラムを構成する次の科目から、2単位取得すること。
 情報処理演習 I (2単位)

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理演習 I	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理演習 I	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理演習 I	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理演習 I	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理演習 I	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	「情報処理演習 I」 【ビッグデータ、IoT、AI】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目)
	1-6	「情報処理演習 I」 【AI最新技術の活用例】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	「情報処理演習 I」 【1次データ、2次データ、構造化データ】Excelでの児童台帳の作成とその活用(8回目)
	1-3	「情報処理演習 I」 【データ・AI活用領域の広がり】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「情報処理演習 I」 【認識技術、ルールベース、自動化技術】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目) 【データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ】Excelを用いたグラフの作成(10回目)
	1-5	「情報処理演習 I」 【データ・AI活用事例紹介】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目) 【データ・AI活用事例紹介】WordとExcelの統合的な使い方(11回目)
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「情報処理演習 I」 【倫理的・法的・社会的課題、個人情報保護】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目)
	3-2	「情報処理演習 I」 【匿名加工情報、パスワード、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介】保育現場での情報の取り扱いとメールマナー(2回目)

(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	「情報処理演習 I」 【データの種類(量的変数、質的変数)】Excelの基本操作(7回目) 【データの分布(ヒストグラム)と代表値】Excelでの児童台帳の作成とその活用(8回目) 【クロス集計表】Excelとデータの集計(9回目)
	2-2	「情報処理演習 I」 【データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)】Excelでの児童台帳の作成とその活用(8回目) 【データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)】Excelとデータの集計(9回目) 【データ表現】Excelを用いたグラフの作成(10回目)
	2-3	「情報処理演習 I」 【データの集計(和、平均)】Excelの基本操作(7回目) 【データの並び替え、ランキング】Excelでの児童台帳の作成とその活用(8回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

課題や目的に応じて、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識を基に情報を収集・分析し、人間や社会への深い洞察力和情報モラル・情報セキュリティの理解をもって、課題を解決するために自己の見解を適切に発信・伝達できる実践的な能力を身につける。

大学等名	名古屋短期大学
プログラム名	名古屋短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称
英語コミュニケーション学科

③ 修了要件
 プログラムを構成する次の科目から、2単位取得すること。
 パソコン演習Ⅰ(1単位)、パソコン演習Ⅱ(1単位)

必要最低科目数・単位数 2 科目 2 単位 履修必須の有無 令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
パソコン演習Ⅰ	1	○	○	○					
パソコン演習Ⅱ	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
パソコン演習Ⅰ	1	○	○	○					
パソコン演習Ⅱ	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
パソコン演習Ⅰ	1	○	○	○					
パソコン演習Ⅱ	1	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
パソコン演習Ⅰ	1	○	○	○					
パソコン演習Ⅱ	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
パソコン演習Ⅰ	1	○	○	○	○						
パソコン演習Ⅱ	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
パソコン演習Ⅱ	4-2アルゴリズム基礎		
パソコン演習Ⅱ	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 「パソコン演習Ⅰ」 【ビッグデータ、IoT、AI、ロボット】<第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会の紹介>オリエンテーション(IT活用のルール、メール設定、タイピングなど)(1回目) 【データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方】各課題総合評価、まとめ(15回目)
	1-6 「パソコン演習Ⅱ」 【データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方】Excel基本操作の確認・オリエンテーション(1回目) 【人間の知的活動とAIの関係性】後期のまとめ課題(15回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-6 「パソコン演習Ⅰ」 【AI等を活用した新しいビジネスモデル】各課題総合評価、まとめ(15回目)
	1-2 「パソコン演習Ⅱ」 【AIの最新技術の活用例】後期のまとめ課題(15回目)
	1-3 「パソコン演習Ⅰ」 【1次データ、2次データ、データのメタ化】オリエンテーション(IT活用のルール、メール設定、タイピングなど)(1回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データのオープン化】後期のまとめ課題(15回目)
	1-3 「パソコン演習Ⅰ」 【データ・AI活用領域の広がり】オリエンテーション(IT活用のルール、メール設定、タイピングなど)(1回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データ・AI活用領域の広がり】Excel基本操作の確認・オリエンテーション(1回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「パソコン演習Ⅰ」 【データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化】Excel基本3(グラフの基本操作)(13回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など】Excel応用課題(7回目)
	1-5	「パソコン演習Ⅰ」 【データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得)】Excel評価課題(14回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データサイエンスのサイクル(探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)】Excel応用課題(7回目)
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「パソコン演習Ⅰ」 【ELSI、個人情報保護、オプトアウト】オリエンテーション(IT活用のルール、メール設定、タイピングなど)(1回目) 【AI社会原則】各課題総合評価、まとめ(15回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データ倫理・ねつ造・改ざん、プライバシー保護】プレゼンテーション応用(発表)(14回目)
	3-2	「パソコン演習Ⅰ」 【情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)】オリエンテーション(IT活用のルール、メール設定、タイピングなど)(1回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介】後期のまとめ課題(15回目)

(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	「パソコン演習Ⅰ」 【データの種類(量的変数、質的変数)】 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)】Excel評価課題(14回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)】 ・観測データに含まれる誤差の扱い ・打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列】Excel応用課題(7回目)
	2-2	「パソコン演習Ⅰ」 【データ表現】 ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)】PowerPoint基本1(基本操作)(7回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データ表現】 ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)】Excel応用課題(7回目)
	2-3	「パソコン演習Ⅰ」 【データの集計(和、平均)】 【データの並び替え、ランキング】Excel評価課題(14回目) 「パソコン演習Ⅱ」 【データ解析ツール(スプレッドシート)】 【表形式のデータ(csv)】Excel応用課題(7回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

課題や目的に応じて、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識を基に情報を収集・分析し、人間や社会への深い洞察力和情報モラル・情報セキュリティの理解をもって、課題を解決するために自己の見解を適切に発信・伝達できる実践的な能力を身につける。

大学等名	名古屋短期大学
プログラム名	名古屋短期大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

現代教養学科

③ 修了要件

プログラムを構成する次の科目から、2単位取得すること。
データサイエンス入門(2単位)

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス入門	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	「データサイエンス入門」 【ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット】社会で起きている変化①、(演習)PCの確認、Excelの基本的な操作方法①(1回目) 【ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット】社会で起きている変化②、(演習)PCの確認、Excelの基本的な操作方法②(2回目)
	1-6	「データサイエンス入門」 【AIの最新技術の活用例】データ・AI利用の最新動向、(演習)度数分布表とヒストグラムの作成(11回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	「データサイエンス入門」 【調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど】社会で活用されているデータ①、(演習)時系列データの可視化①(3回目) 【調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど】社会で活用されているデータ②、(演習)時系列データの可視化②(4回目)
	1-3	「データサイエンス入門」 【データ・AI活用領域の広がり】データ・AIの活用領域、(演習)平均の算出とその可視化(5回目)

(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	「データサイエンス入門」 【データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など】データ・AI活用のための技術①、(演習) 標準偏差の算出とその可視化(6回目) 【データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など】データ・AI活用のための技術②、データ・AI利用の現場①(7回目)
	1-5	「データサイエンス入門」 【データ・AI活用事例紹介】データ・AI活用のための技術②、データ・AI利用の現場①(7回目) 【データ・AI活用事例紹介】データ・AI利用の現場②、(演習) 基本統計量の算出と箱ひげ図①(9回目) 【データ・AI活用事例紹介】データ・AI利用の現場③、(演習) 基本統計量の算出と箱ひげ図②(10回目)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	「データサイエンス入門」 【倫理的・法的・社会的課題、個人情報保護】データ・AIを扱う上での留意事項①、(演習) 散布図の作成と相関係数の算出(12回目) 【倫理的・法的・社会的課題、個人情報保護】データ・AIを扱う上での留意事項②、(演習) 定性データの扱い方とクロス集計(13回目)
	3-2	「データサイエンス入門」 【匿名加工情報、パスワード、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介】データ・AIを守る上での留意事項、(演習) 総合演習①(14回目)

(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用方法に関するもの	2-1	<p>【データサイエンス入門】 【データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)]データ・AIの活用領域、(演習)平均の算出とその可視化(5回目) 【データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値]データ・AI活用のための技術①、(演習)標準偏差の算出とその可視化(6回目) 【母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)](講義)データ・AI活用のための技術②、データ・AI活用の現場①(7回目) 【データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値]データ・AI活用の現場②、(演習)基本統計量の算出と箱ひげ図①(9回目) 【データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値]データ・AI活用の現場③、(演習)基本統計量の算出と箱ひげ図②(10回目) 【データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)]データ・AI活用の最新動向、(演習)度数分布表とヒストグラムの作成(11回目) 【相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)]データ・AIを扱う上での留意事項①、(演習)散布図の作成と相関係数の算出(12回目) 【クロス集計表]データ・AIを扱う上での留意事項②、(演習)定性データの扱い方とクロス集計(13回目)</p>
	2-2	<p>【データサイエンス入門】 【優れた可視化事例の紹介]社会で活用されているデータ①、(演習)時系列データの可視化①(3回目) 【優れた可視化事例の紹介]社会で活用されているデータ②、(演習)時系列データの可視化②(4回目) 【優れた可視化事例の紹介]データ・AIの活用領域、(演習)平均の算出とその可視化(5回目) 【優れた可視化事例の紹介]データ・AI活用のための技術①、(演習)標準偏差の算出とその可視化(6回目) 【優れた可視化事例の紹介]データ・AI活用のための技術②、データ・AI活用の現場①(7回目) 【データ表現]データ・AI活用の現場②、(演習)基本統計量の算出と箱ひげ図①(9回目) 【データ表現]データ・AI活用の現場③、(演習)基本統計量の算出と箱ひげ図②(10回目) 【データ表現]データ・AI活用の最新動向、(演習)度数分布表とヒストグラムの作成(11回目) 【データ表現]データ・AIを扱う上での留意事項①、(演習)散布図の作成と相関係数の算出(12回目) 【データ表現]データ・AIを扱う上での留意事項②、(演習)定性データの扱い方とクロス集計(13回目)</p>
	2-3	<p>【データサイエンス入門】 【データの集計(和、平均)]データ・AIの活用領域、(演習)平均の算出とその可視化(5回目) 【データの集計(和、平均)]データ・AI活用のための技術①、(演習)標準偏差の算出とその可視化(6回目) 【データの集計(和、平均)](講義)データ・AI活用のための技術②、データ・AI活用の現場①(7回目) 【データの集計(和、平均)]データ・AI活用の現場②、(演習)基本統計量の算出と箱ひげ図①(9回目) 【データの集計(和、平均)]データ・AI活用の現場③、(演習)基本統計量の算出と箱ひげ図②(10回目) 【データの集計(和、平均)]データ・AI活用の最新動向、(演習)度数分布表とヒストグラムの作成(11回目) 【データの集計(和、平均)]データ・AIを扱う上での留意事項①、(演習)散布図の作成と相関係数の算出(12回目) 【データの集計(和、平均)]データ・AIを扱う上での留意事項②、(演習)定性データの扱い方とクロス集計(13回目)</p>

① プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

課題や目的に応じて、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識を基に情報を収集・分析し、人間や社会への深い洞察力和情報モラル・情報セキュリティの理解をもって、課題を解決するために自己の見解を適切に発信・伝達できる実践的な能力を身につける。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数
(令和6年5月1日時点)

男性 4人 女性 446人 (合計 450人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
保育科	304	200	440	147	139											147	33%
英語コミュニケーション学科	59	50	130	68	64											68	52%
現代教養学科	87	50	130	45	45											45	35%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	450	300	700	260	248	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	260	37%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 名古屋短期大学教務委員会は、教育課程、授業、定期試験、成績評価、単位認定、資格授与、学籍、時間割編成、その他教務に関する必要事項を審議し、必要な連絡調整をおこなう。名古屋短期大学FD委員会は、FDのための基本方針の策定、FDのための研修会等の開催、その他FDに関する事項、FD活動についての自己点検・評価を取り扱う。これらの組織は協働して数理・データサイエンス・AI教育の円滑な実施および教育内容の確認と教育効果の質向上を図る。

- ⑦ 具体的な構成員
- 名古屋短期大学教務委員会: 小川絢子(教務部長・保育科教授)、八幡美保(教務委員・保育科准教授)、三輪恭子(教務委員・英語コミュニケーション学科教授)、綾部六郎(教務委員・現代教養学科助教)、野村祥宗(教務課係長)、加藤由香(教務課職員)
 名古屋短期大学FD委員会: 小川絢子(教務部長・保育科教授)、八幡美保(教務委員・保育科准教授)、三輪恭子(教務委員・英語コミュニケーション学科教授)、綾部六郎(教務委員・現代教養学科助教)、野村祥宗(教務課係長)、加藤由香(教務課職員)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	37%	令和7年度予定	80%	令和8年度予定	100%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	700

具体的な計画

令和7年度以降、目標を実現するために、新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて説明を強化すること、新入生へ配布する『Campus Life Guide』やシラバスにおいて数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシーレベルに該当する科目であることを記載することを検討し、周知機会を増やして学生の関心を高めることを図る。令和8年度以降は、周知内容に当該プログラムを修了した卒業生の評価も取り入れ、一層の広報活動を図る。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

令和6年度現在、現代教養学科における本プログラム構成科目「データサイエンス入門」は、「他学科開放科目」(※)として他2学科の在籍学生が受講しやすいよう設定している。保育科における本プログラム構成科目「情報処理演習Ⅰ」、英語コミュニケーション学科における本プログラム構成科目「パソコン演習Ⅰ」、「パソコン演習Ⅱ」についても、今後、同様の設定を検討する。
※「他学科開放科目」: 全学科が教育課程上に設定しており、卒業単位として算入可(上限あり)。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生へ配布する『Campus Life Guide』に教育課程の構成について記載している。また、新入生オリエンテーションにおいて、各学科教務委員より新入生へ内容や学修目標、卒業までの学修の道程における学修構成等を説明している。さらに、毎学期の履修ガイダンスにおいて卒業要件等を説明し、各自の履修科目を確認させている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では入学時にパソコンを必携とし、大学から全学生にMicrosoft Office365を提供して授業における情報通信技術の利活用を推進している。オンデマンドによる学修や同時双方向型オンライン学修、LMSの活用への資料掲載等により、学生各自が反復学習可能となるよう、授業担当者へ当該システムの活用を推奨している。また、「遠隔授業個人申請の手順」を整備し、実習や障害等により通学が困難な学生にも面接授業と同等の学修環境を用意できる体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学修のための資料をアーカイブすることで学生各自が反復学習可能となるよう授業担当者へをLMSの活用を推奨している。また、オフィスアワーや授業担当者との連絡方法を公開し、授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける仕組みを用意している。さらに、本学に附置する情報総合センターに専任者を置き、開局時間は学生からの質問等を受け付ける体制を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会

(責任者名) 小川 絢子

(役職名) 教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	学務部教務課にて本プログラムの履修・修得状況を管理するとともに、同データは名古屋短期大学教務委員会にて評価・改善のための資料として活用している。
学修成果	学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて、到達目標の達成度、身についたと感じる学修成果を把握することができる。これらのデータは名古屋短期大学FD委員会にて評価・改善のための資料として活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて、授業内容の理解度を把握することができる。同データは名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会にて評価・改善のための資料として活用している。また、授業担当者は授業計画において小テストや課題を設定し、学生個々の理解度を把握し、授業運営の改善に役立てている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では全授業を対象とし、学期末授業アンケートを実施している。次年度は、前年度授業アンケートの結果を含めたHPIにおける当該プログラムの公開、新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおける当該プログラムの説明の強化を行い、数理・データサイエンス・AIに係る関心や学ぶことの意義への理解を促進する取り組みを行う。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	周知機会を増やして学生の関心を高めるため、新入生へ配布する『Campus Life Guide』やシラバスにおいて数理・データサイエンス・AI教育プログラムのリテラシーレベルに該当する科目であることを記載することを検討、また、新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて、各学科教務委員等より当該プログラムを説明する機会の拡充を図る。さらに、シラバス作成依頼時や非常勤講師打合せ会において当該プログラムを授業担当者へ説明し、できる限り多くの学生が履修・修得できるよう、LMS等の活用を強化するよう推奨する。自己点検・評価活動や関心・理解を促進する取り組みを踏まえ、内容・水準の維持・向上、学修意欲の喚起に資する教育活動を継続する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>学務部学生課では、卒業年次生に対し、進路・就職状況アンケートを行うとともに、卒業後1年が経過した卒業生にアンケート調査を実施している。これらにより、今後、当該プログラム修了者の進路、活躍状況等を把握することが可能である。また、正課に配置する学外実習(インターンシップ、教育実習、等)実施時の教員による巡回指導、連携協定を結ぶ自治体との協働活動、大学評価委員会が定期開催する外部評価において、当該プログラム修了者の活躍状況や学外からの評価を収集する。</p> <p>正課に配置する学外実習(インターンシップ、教育実習、等)実施時の教員による巡回指導、連携協定を結ぶ自治体との協働活動、大学評価委員会が定期開催する外部評価において、当該プログラムへの意見を収集する。修了者の活躍状況を含めた学外からの意見は教務委員会において集約し、当該プログラムの改善・向上に活用する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>各授業において、数理・データサイエンス・AIが実社会でどのように活用されているか、題材は身近なテーマを取り上げ、学生の実体験に即した経験として捉えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。また、資料配布やLMSを活用したフィードバック等、授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)を促進する取組を授業担当者へ奨励している。これらの取組は、学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて学修行動(予復習や自主学習への取り組みも含めこの授業に意欲的・積極的に取り組んだか、関連する内容により興味を持ちさらに学びたいと感じたか)として把握し、授業運営の改善に役立っている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学務部教務課が実施する授業アンケートにおいて、「分かりやすさ」(教員の話し方や説明は分かりやすかったか、教材の使い方は適切だったか、質問ができるような機会や工夫があったか)や授業内容の理解度を測り、授業担当者への反省材料とするとともに、同データは桜名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会にて評価・改善のための資料として活用している。また、授業担当者は授業計画において小テストや課題を設定し、学生個々の理解度を把握したり、フィードバックや解説を行うことで学生の理解を促進する工夫をしている。</p>

2024年度シラバス

科目名:MH1100172 情報処理演習 I	担当者:上原 隆司	開講学科等	保育科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭2種免許状、保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須, 選択	選択

授業概要と方法

Microsoft Office(Word・Excel・PowerPoint)の基本操作をマスターする。また、保育現場での情報の取り扱いにおける注意点について、事例などをもとに学ぶ。

授業の到達目標

- ・社会人として必要な情報リテラシーを身につける。【DP】
- ・園だよりや児童台帳、スライドショー動画などの作成を通じてOfficeソフトの基礎を習得し、将来保育の場面で必要な力を身につける。
- ・パソコンの使い方に慣れ、特別な道具としてではなく、日常的に活用できるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】

◎豊かな人間性・主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)

情報検索やレポートの作成などを通じて日常的にパソコンを使って慣れることが、使い方をマスターするための近道である。授業で学んだ技術は様々な科目の学習活動、また日常生活において積極的に活用すること。

評価方法

各回で扱う課題への取り組み姿勢 50%、取り組み課題の成果物の完成度(内容理解) 50%で総合的に評価します。

教科書

これからの保育のためのICTリテラシー&メディア入門(みらい)

参考図書

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

この授業はe-Learning形式の授業です。各回の受講と課題の提出には期限が設けられています。Moodleの授業コースを定期的に確認し、期限を守って受講してください。質問は定められた時間に担当者の研究室で受け付けます。

01	ガイダンス、受講環境の確認と設定
02	保育現場での情報の取り扱いとメールマナー
03	Wordでの文書作成の基本
04	Wordでの表の取り扱いとフォーマルな文書の作成
05	Wordでの図の取り扱い
06	Wordの総合的な活用とクラスだよりの作成
07	Excelの基本操作
08	Excelでの児童台帳の作成とその活用
09	Excelとデータの集計
10	Excelを用いたグラフの作成
11	WordとExcelの統合的な使い方
12	PowerPointの基本操作とスライド作成
13	PowerPointでの図形や図の応用的な使い方
14	PowerPointでの発表会プログラムやポスターの作成
15	PowerPointでのスライドショー動画の作成
16	なし

2024年度シラバス

科目名:ME11PCS01 パソコン演習 I	担当者:加藤 和幸	開講学科等	英語コミュニケーション学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校教諭2種免許状 外国語(英語)		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須, 選択	選択

授業概要と方法
 パソコン演習 I では、パソコンの基本的な操作を中心に学ぶ。パソコンの基本操作から始めて、文書作成 (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint)の基本的事項を演習形式で学習する。また、メールの送り方、Moodleの使い方を学ぶ。授業で使用するパソコンは、毎回各自が準備し持参する。

授業の到達目標
 基本的なパソコン操作、IT活用における基本的なルールをしっかりと理解し、メール操作ができるようになる。本学が使用しているMoodleを使い、課題の提出ができるようになる。Wordを利用することで効率よい文書作成ができるようになる。Excelを利用し簡単な集計を適切に行えるようにする。PowerPointは基本的な操作、表現ができるようになる。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)
 学校からの連絡文書、新聞等、身の回りには情報を活用したシーンにあふれています。まずは、世の中の情報の活用に目を向けましょう。そして、習ったことを取り入れ、積極的にパソコンに触れましょう。
 タイピング練習は日常的に行いましょう。
 なお、事後学修はチャレンジ課題として評価します。日常的なタイピングの向上と、各単元の復習課題に積極的に取り組んでください。各授業について必要時間 (1時間)

評価方法
 平常点 (授業態度・プレゼンテーション等) 30%、レポート・テスト等70%の割合で評価する。
 課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書 情報リテラシーアプリ編 FOM出版 その他適宜配布資料	参考図書 適宜授業で紹介
---	------------------------

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
 毎回充電済みパソコンを持参すること。
 授業内容についての疑問点は、授業内に質問し解決すること。
 授業外での質問や自学自習の報告等はメールまたは総合情報センターに連絡すること。

01	オリエンテーション (IT活用のルール、メール設定、タイピングなど)
02	パソコンの基礎 パソコンの基本構成とその理解
03	Word基本 1 (基本的なビジネス文書の作成、ルールを身に着ける)
04	Word基本 2 (表を含んだ文書の作成)
05	Word基本 3 (図や図形を含んだ文書の作成)
06	Word評価課題
07	PowerPoint基本 1 (基本操作)
08	PowerPoint基本 2 (アニメーション)
09	PowerPoint評価課題
10	PowerPointでデジタルプレゼンテーション (発表)
11	Excel基本 1 (EXCELのルールと四則演算集計)
12	Excel基本 2 (オートサムボタン)
13	Excel基本 3 (グラフの基本操作)
14	Excel評価課題
15	各課題総合評価、まとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:ME12PCS01 パソコン演習Ⅱ	担当者:加藤 和幸	開講学科等	英語コミュニケーション学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校教諭2種免許状 外国語(英語)		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須, 選択	選択

授業概要と方法
 前期の基本操作を受け、活用場面を想定し課題に取り組む。技術的には、文書作成 (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) の応用技術を連携して活用することができるようになることをめざす。授業展開としては、活用場面を想定し、チームでデータを作成することから始め、その実際に登録したデータがどのように活用されていくのかを課題作成の演習を通して学ぶ。

授業の到達目標
 活用場面を想定したデータ登録をチームで協力して行う。Excelでは、作成したデータベースを活用するための操作方法や、関数、グラフなどの応用技術を身につける。Wordでは、Excelで作成したグラフなどと連携した文書を作成することができるようになる。PowerPointでは、学習成果の発表会とし、MicrosoftのOfficeツールを連携して活用できるようになる。発表を通して他者から学び、授業は学び合いの場ととらえ、互いに技術の向上に努める。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
 ◎社会で活躍できる思考力・判断力・表現力
 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)
 パソコンを活用するためのポイントは自分の日常の課題解決のために利用することです。授業では技術を学ぶのですが、日常では活用する場面はあふれています。積極的にパソコンを活用していきましょう。
 また、スピードを上げるためには、タイピングや練習問題などを繰り返し練習することが必要です。
 なお、事後学習には、復習課題としてチャレンジ課題を準備しますので積極的に取り組んでください。
 各授業について必要時間 (1時間)

評価方法
 平常点 (授業態度・プレゼンテーション等) 30%、レポート・テスト等70%の割合で評価する。課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書 パソコン演習Ⅰで使用したテキスト、その他適宜配布資料	参考図書 必要に応じて、適宜、授業内で紹介する。
--	------------------------------------

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
 毎回充電済みパソコンを持参すること。
 授業内容についての疑問点は、その都度、授業内に質問し解決すること。
 授業外での質問や自学自習の報告等は、メールまたは総合情報センターに連絡すること。

01	Excel基本操作の確認・オリエンテーション
02	Excel応用1 (データベースでの利用)
03	Excel応用2 (関数: 検索・条件判定)
04	Excel応用3 (グラフの活用)
05	Excel応用4 (プログラミング-VBAの基本)
06	Excel応用5 (プログラミング-VBAの利用)
07	Excel応用課題
08	Word応用1 (EXCELとの連携)
09	Word応用2 (チラシ作成)
10	Word応用評価課題
11	PowerPoint応用1 (表とグラフ)
12	PowerPoint応用2 (ハイパーリンク)
13	PowerPoint応用3 (ノート作成とリハーサル)
14	プレゼンテーション応用 (発表)
15	後期のまとめ課題
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:MG11F2L02 データサイエンス入門	担当者:茶谷 淳一	開講学科等	現代教養学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須, 選択	選択

授業概要と方法
 科学技術が発展しビッグデータやAIによって大きく変わろうとしている社会の中で、AIやデータを利活用するための基礎的な知識を習得し、留意点を理解する。また、データ処理の基本ソフトであるExcelを用いて実際のデータを用いた演習を行うことで、統計の知識を身につけ、データサイエンスを体験する。(DP)

授業の到達目標
 ①社会におけるデータやAIの活用状況を理解し、データで説明することの重要性を理解することができる。②統計の基本的な考え方を身につけ、データを読み、分析することによって、データの特徴を「大づかみ」することができる。③注意すべき点について留意しながら、データやAIを利用することができる。

- 【到達目標と深く関連する学科DP】
 ◎幅広い分野にわたる専門知識
 ○幅広い知識と広い視野に基づく思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修)
 毎回、Excelを用いたデータ分析を授業内で行う。もし、授業時間内にできなかった場合は、資料を見ながら自習し、次回までに終えておくこと。また、moodleで行う毎回の小テスト課題は、締め切りまでに提出する。以上の事前事後学習を4時間行う。

評価方法
 小テスト課題：60%、授業課題20%、総合演習課題：20%。なお、毎回の小テスト課題は答え合わせの時にmoodle上でフィードバックされます。授業課題は授業で作成した課題を提出していただきます。また、総合演習課題はすべての授業終了後、moodleにフィードバックします。

教科書 なし	参考図書 吉岡、森倉、小林、照屋著「AIデータサイエンスリテラシー入門」技術評論社、2022年
-----------	--

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
 1. 名短Moodleにアップした(講義)資料は必要に応じて各自プリントアウトすること。ただし、資料ファイルやプリントアウトを他人に配布しないこと。(演習)資料はダウンロード禁止
 2. 授業には毎回、PCとスマートフォンを必ず持ってくる。キャリアスタディの日程によってオンデマンド授業の日が変更されることあります。

01	(講義) 社会で起きている変化①、(演習) PCの確認、Excelの基本的な操作方法①
02	(講義) 社会で起きている変化②、(演習) PCの確認、Excelの基本的な操作方法②
03	(講義) 社会で活用されているデータ①、(演習) 時系列データの可視化①
04	(講義) 社会で活用されているデータ②、(演習) 時系列データの可視化②
05	(講義) データ・AIの活用領域、(演習) 平均の算出とその可視化
06	(講義) データ・AI利活用のための技術①、(演習) 標準偏差の算出とその可視化
07	【オンデマンド】(講義) データ・AI利活用のための技術②、データ・AI利活用の現場①
08	(演習) 大量のデータを扱う方法①、②
09	(講義) データ・AI利活用の現場②、(演習) 基本統計量の算出と箱ひげ図①
10	(講義) データ・AI利活用の現場③、(演習) 基本統計量の算出と箱ひげ図②
11	(講義) データ・AI利活用の最新動向、(演習) 度数分布表とヒストグラムの作成
12	(講義) データ・AIを扱う上での留意事項①、(演習) 散布図の作成と相関係数の算出
13	(講義) データ・AIを扱う上での留意事項②、(演習) 定性データの扱い方とクロス集計
14	(講義) データ・AIを守る上での留意事項、(演習) 総合演習①
15	(演習) 総合演習②
16	試験なし

保育科教育課程表

2024年度入学者適用

区分	必修科目			授業科目	開講	必修	選択	卒業単位数	学年配当				科目ナンバー
	卒	幼	保						1年		2年		
									前	後	前	後	
基礎教育科目				英語	1		1		○				MH100111
				保育の英語	1		1			○			MH120111
				フランス語Ⅰ(非開講)	1		1		○				MH100121
				フランス語Ⅱ(非開講)	1		1			○			MH120112
				ポルトガル語Ⅰ	1		1		○				MH100131
				ポルトガル語Ⅱ	1		1			○			MH120131
				中国語Ⅰ	1		1		○				MH100141
				中国語Ⅱ	1		1			○			MH120141
		①	①	スポーツ	1		1		●	●			MH100051
			①	スポーツ健康論	1		1			○			MH100161
			②	情報処理演習Ⅰ	2		2			○			MH100172
				情報処理演習Ⅱ	2		2			○			MH120152
			②	日本国憲法	2		2			○			MH1200182
		②		日本語表現	2	2				○			MH100202
			教養数学	2	2				○			MH1200212	
			他学科開放指定科目(※2)	6	6				○	(○)	(○)		
小計					26	2	24		10単位以上修得すること				

専門教育科目		②	②	保育原理	2	2	2		○				MH114112
		②	②	教育原理	2	2	2		○				MH114122
			②	子ども家庭福祉	2	2	2		○				MH121112
			②	社会福祉	2	2	2			○			MH122112
			②	子ども家庭支援論	2	2	2			○			MH122122
			②	社会的養護Ⅰ	2	2	2		○				MH1122122
			①	社会的養護Ⅱ	1	1	1			○			MH1223111
			②	保育者論	2	2	2		○				MH1142112
			②	教育関係法規	2	2	2			○			MH2243132
			②	保育の心理学	2	2	2		○				MH1121132
			①	特別支援教育論	1	1	1	2	○				MH1122141
			①	幼理解の理論と方法	1	1	1	5	○				MH1223141
			①	幼児教育相談	1	1	1			○			MH2223121
			②	子ども家庭支援の心理学	2	2	2			○			MH122132
			②	子どもの保健	2	2	2		○				MH1131112
		②	②	子どもの食と栄養	2	2	2			○			MH2133112
			②	保育カリキュラム論	2	2	2			○			MH2143112
		②	②	保育内容総論	2	2	2			○			MH1211112
			②	保育内容指導演「生活と健康」	2	2	2			○			MH2213142
			①	保育内容指導演「生活と人間関係」	1	1	1			○			MH2213151
		①	保育内容指導演「生活と環境」	1	1	1			○			MH2213161	
		①	保育内容指導演「生活と言葉」	1	1	1			○			MH2113171	
		①	保育内容指導演「生活と表現」	1	1	1			○			MH2113181	

区分	必修科目			授業科目	開講	必修	選択	卒業単位数	学年配当				科目ナンバー
	卒	幼	保						1年		2年		
									前	後	前	後	
専門教育科目		②	②	幼児教育指導法	2		2				○		MH2143122
		※3	②	子どもと健康Ⅰ	2		2				○		MH2112112
		※3	①	子どもと人間関係	1		1				○		MH2112131
		※3	①	子どもと環境	1		1				○		MH2112141
		※3	①	子どもと言葉	1		1				○		MH2112151
		※3	①	子どもと表現	1		1				○		MH2112161
		②	②	保育の音楽Ⅰ	2		2		○				MH1111132
		②	②	保育の音楽Ⅱ	2		2			○			MH1212182
		※3	②	子どもと音楽表現	2		2			○			MH2112192
		※3	②	子どもと造形表現Ⅰ	2		2		○				MH1111122
		※3	②	子どもと造形表現Ⅱ	2		2			○			MH1212172
		⑦	※3	①	子どもと健康Ⅱ	1		1			○		MH2212121
		②	②	児童文化	2		2				○		MH2214122
		②	②	音楽劇	2		2				○		MH2214132
		①	①	食育	1		1				○		MH2234111
		②	②	私たちの地球について考える	2		2		○				MH1113132
			②	乳児保育Ⅰ	2		2			○			MH1231122
			①	乳児保育Ⅱ	1		1			○			MH2132131
			①	子どもの健康と安全	1		1			○			MH1232111
			②	障害児保育	2		2				○		MH2123132
		②	海外の保育と英語	2		2					○		MH2263112
			インクルーシブ保育の理論と方法	1		1				○		MH1213111	
			多文化共生保育	1		1				○		MH2213121	
	①	①	教育実習Ⅰ(事前・事後指導)	1	1	1		○				MH1151111	
		①	教育実習Ⅱ(事前・事後指導)	1		1				○		MH2153111	
	①	①	教育実習Ⅰ	1	1	1		●	●			MH1052111	
		③	教育実習Ⅱ	3		3				○		MH2254113	
		①	保育実習ⅠA(事前・事後指導)	1		1			○			MH1251121	
		①	保育実習ⅠB(事前・事後指導)	1		1				○		MH2151131	
		①	保育実習Ⅱ(事前・事後指導)	1		1				○		MH2253131	
		②	保育実習Ⅰ(保育所)	2		2				○		MH2153122	
		②	保育実習Ⅰ(児童福祉施設)	2		2			○			MH1252122	
		②	保育実習Ⅱ	2		2				○		MH2254122	
	②		保育基礎演習Ⅰ	2	2	2		○				MH1171112	
	②		保育基礎演習Ⅱ	2	2	2			○			MH1272112	
	②	②	保育実践演習Ⅰ	2	2	2				○		MH2173112	
	②	②	保育実践演習Ⅱ	2	2	2				○		MH2274112	
	②	②	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	2	2				○		MH2214112	
小計					99	20	79		55				
総計単位数					126	22	103		65				

注意事項

- 外国語のⅡを履修する場合はその科目のⅠの単位を履修していること。
子どもの造形表現Ⅱを履修する場合はその科目のⅠの単位を修得していること。
- 他学科開放指定科目は、6単位を限度として英語コミュニケーション学科、現代教養学科が指定する授業科目と桜花学園大学で科目等履修生として修得した単位を基礎教育科目の卒業要件にできる。
- インクルーシブ保育の理論と方法、多文化共生保育は隔年開講とする。

1. 各要件共通

○数字は必修 ●印は選択

2. 卒業要件

○印を含め65単位以上修得すること。

3. 幼2種免要件

上記※3の科目から4単位以上修得すること。

4. 保育士資格要件

上記※1の科目のうち2科目以上修得すること。

上記※2の科目から4単位以上修得すること。

英語コミュニケーション学科 教育課程表、学科ディプロマポリシーと科目の対応表

①英語に対する深い理解と高い英語コミュニケーション力を持ち、異文化への十分な知識と理解に基づいて国際社会において他者と協働できる。

(対応→ ECP1-2専門教育科目群のうち、英語に関する演習と実習科目(海外留学プログラム)では、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる英語力を習得し、異文化理解により国際化した社会で多様な人々と協働する力を養う。EDP1「英語によるコミュニケーション力」EDP4「他者との協働性」)

- (1)「話す・聞く・読む・書く」の英語の4技能をバランスよく身につけ、英語によるスムーズなコミュニケーションが取れる。
- (2)英語によるコミュニケーションに必要な異文化への理解が充分にあり、国際社会において活躍できる。
- (3)英語という言語の特徴を深く理解し、さまざまな文化や社会の文脈において流暢にコミュニケーションが取れる。

②国際社会において活躍するために必要な思考力と判断力を備え、自らの考えを適切に表現することができる。

(対応→ ECP1-1基礎教育科目群を学修することにより、短期大学における専門教育科目を学ぶ上で必要となる学力の基礎を培う。ECP1-3専門教育科目群のうち、幅広い教養を修得するための専門科目では、建学当初からの教育理念である信念ある人となるために、さまざまな分野で国際社会や地域に貢献し、活躍するための基礎的な知識と能力を身につける。EDP2「思考力・判断力・表現力」)

- (1)国内外において活躍するために必要な教養として、英語以外の諸外国語の基礎及びIT技能の基礎を備え、それを十分に活かすための心身管理能力が身につけている。
- (2)自国を深く理解し、また翻って他国を理解することのできる鍛えられた思考力と判断力が身につけている。
- (3)国際社会における自らの立場を十分に理解し、英語または他の言語を用いて自らの考えを適切に表現できる。

③国際社会や地域におけるさまざまな課題とその特徴を理解し、それらに意欲的に取り組むための知識と幅広い教養が身につけている。

(対応→ ECP1-3専門教育科目群のうち、幅広い教養を修得するための専門科目では、建学当初からの教育理念である信念ある人となるために、さまざまな分野で国際社会や地域に貢献し、活躍するための基礎的な知識と能力を身につける。EDP2「思考力・判断力・表現力」EDP3「問題発見・解決力」EDP4「他者との協働性」)

- (1)国際社会における諸問題を理解し、それらに対して自らの意見を持ち、議論ができる。
- (2)地域に貢献することに意欲を持ち、それに取り組む知識を備え、努力できる。
- (3)英語コミュニケーション学科での学びを基にさまざまな状況に柔軟に対応し、他者と協働することができる。

④社会において他者と協働し、即戦力となり得る実践的な技能が身につけている。

(対応→ ECP1-4 国内・海外でのインターンシップ科目を通し、他科目にて学習した内容を学外にて活かし、また実践的な知識と技能を得る。EDP2「思考力・判断力・表現力」EDP3「問題発見・解決力」EDP4「他者との協働性」)

- (1)高い思考力と判断力を備え、英語コミュニケーション学科での学びを学外での実習において活かすことができる。
- (2)社会において活躍するための実践的な知識を身につけている。
- (3)英語コミュニケーション学科での学びを基にさまざまな状況に柔軟に対応し、他者と協働することができる。

2024年度入学者適用

区分	授業科目	開講	必修	選択	卒業要件	学年配当				到達目標と深く関連する学科DP				科目ナンバー
						1年		2年		①	②	③	④	
						前期	後期	前期	後期					
基礎教育科目	スペイン語Ⅰ	1	1	1	※1	○				◎				ME11FLN01
	スペイン語Ⅱ	1	1	1		○				◎				ME12FLN01
	韓国語Ⅰ	1	1	1	○				◎				ME11FLN02	
	韓国語Ⅱ	1	1	1	○				◎				ME12FLN02	
	パソコン演習Ⅰ	1	1	1	○				◎				ME11PCS01	
	パソコン演習Ⅱ	1	1	1	○				◎				ME12PCS01	
	スポーツ実技	1	1	1	○				◎				ME11SPT01	
	スポーツ健康論	2	2		○				◎				ME12SPT02	
	日本語表現Ⅰ	2	2	2	○				◎				ME11JPN01	
	日本語表現Ⅱ	2	2	2	○				◎				ME12JPN01	
	日本国憲法	2	2		○				◎				ME11CON01	
	ライフデザイン	1	1		○				◎				ME12CAR01	
	他学科開放指定科目※2	6		6			○	○	○					
小計	22	4	18		10									

区分	授業科目	開講	必修	選択	卒業要件	学年配当				到達目標と深く関連する学科DP				科目ナンバー
						1年		2年		①	②	③	④	
						前期	後期	前期	後期					
専門教育科目	異文化研究	2	2		37	○				◎				ME11WRD01
	多文化社会論	2	2							◎	◎			ME21WRD02
	地域研究Ⅰ(アメリカ)	2	2			○				◎	◎			ME11WRD03
	地域研究Ⅱ(韓国)	2	2						○	◎	◎			ME22WRD04
	地域研究Ⅲ(オセアニア)	2	2						○	◎	◎			ME22WRD05
	地域研究Ⅳ(イギリス)	2	2						○	◎	◎			ME22WRD06
	国際関係論	2	2						○	◎	◎			ME22WRD07
	国際経済論	2	2						○	◎	◎			ME22WRD08
	観光と地理	2	2						○	◎	◎			ME21WRD09
	ツーリズム概論	2	2					○		◎	◎			ME12WRD10
	労働と社会	2	2						○	◎	◎			ME21CAR02
	事務管理	2	2					○		◎	◎			ME12CAR03
	秘書概論	2	2					○		◎	◎			ME11CAR04
	秘書実務	2	2						○	◎	◎			ME23CAR05
	エアライン・ホスピタリティⅠ	1	1					○		◎	◎			ME11CAR06
	エアライン・ホスピタリティⅡ	1	1					○		◎	◎			ME12CAR07
	インターンシップS	1	1					○	○	○	○			ME99CAR08
	インターンシップM	2	2					○	○	○	○			ME99CAR09
	海外英語実習	5	5						○		◎			ME120VS01
	語学留学実習※3	15	(5)	10							◎			ME120VS02
	海外研修S	1	1					○	○	○	○	◎	◎	ME990VS03
海外研修M	2	2				○	○	○	○	◎	◎	ME990VS04		
海外研修L	4	4				○	○	○	○	◎	◎	ME990VS05		
海外ボランティア・インターンシップS	1	1				○	○	○	○	◎	◎	ME990VS06		
海外ボランティア・インターンシップM	2	2				○	○	○	○	◎	◎	ME990VS07		
海外ボランティア・インターンシップL	4	4				○	○	○	○	◎	◎	ME990VS08		
小計	120	21	94		58									
総計単位数	142	25	112		68									

区分	授業科目	開講	必修	選択	卒業要件	学年配当				到達目標と深く関連する学科DP				科目ナンバー
						1年		2年		①	②	③	④	
						前期	後期	前期	後期					
教職に関する専門科目	英語科教育法	2	2							◎				ME12EDU01
	教育原理	2	2			○								ME12EDU02
	教職・教育課程論	2	2			○								ME11EDU03
	教育行政・制度論	2	2				○							ME12EDU04
	教育心理学	2	2				○							ME12EDU05
	特別支援基礎論	1	1			○								ME11EDU06
	道徳教育の指導法	2	2			○								ME11EDU07
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	2					○						ME22EDU08
	教育方法論(ICT活用含む)	2	2			○								ME11EDU09
	生徒・進路指導論	2	2					○						ME22EDU10
	教育相談	2	2					○						ME12EDU11
	教育実習(事前・事後指導)	1	1						●	●				ME23EDU12
	教育実習	4	4						●	●				ME23EDU13
	教職実践演習(中学校)	2	2						○					ME22EDU14
小計	28	28												

※この科目は中学校教諭免許状取得のための科目であって、卒業要件に含まれない。

※1 同一外国語(ⅠとⅡ)の2単位を修得すること。

※2 他学科開放指定科目は、保育科・現代教養学科が指定する授業科目の修得単位を6単位まで基礎教育科目の卒業要件にできる。

※3 語学留学実習の修得で専門教育科目「English In Action Ⅱ」「Intensive English Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の必修5単位と選択10単位を修得したとする。

現代教養学科教育課程表

2024年度入学者適用

区分	フィールド	ナンバリングコード	授業科目	開講	必修	選択	卒業要件単位数	学年配当						
								1年		2年				
								前期	後期	前期	後期			
基礎教養科目		MG10L1L01	キャリアデザイン I	2	2	2	16	○	○					
		MG22L1L02	キャリアデザイン II	2	2	2				○				
		MG10L1S01	教養演習 I	2	2	2			○	○				
		MG20L1S02	教養演習 II	2	2	2					○	○		
		MG11L1S03	日本語表現A	2	2	2			○					
		MG12L1S04	日本語表現B	2	2	2				○				
		MG11L1S05	コンピュータ演習A	1	1	1			○					
		MG12L1S06	コンピュータ演習B	1	1	1				○				
		MG20L1S07	卒業研究	2	2	2					○	○		
		MG11L2S01	CAD演習	1	1	1			○					
		MG12L2L01	ITパスポート入門	2	2	2				○				
		MG22L2S02	プログラミング演習	1	1	1						○		
		MG11L2L02	秘書概論	2	2	2			○					
		MG20L2S03	ビジネスコミュニケーション	2	2	2					○	○		
		MG11L2S04	簿記A	2	2	2			○					
		MG12L2S05	簿記B	2	2	2				○				
		MG11L2L03	医療実務A	2	2	2			○					
		MG12L2L04	医療実務B	2	2	2				○				
			小計			32		16	16					
		専門教養科目		MG11F1L01	コミュニケーションの心理	2		2	2	47	○			
MG12F1L02	カウンセリング入門			2	2	2		○						
MG21F1L03	心理学			2	2	2			○					
MG22F1L04	人間関係と恋愛の心理			2	2	2						○		
MG11F1L05	ポピュラーカルチャー論			2	2	2		○						
MG21F1L06	ジェンダーとセクシュアリティ			2	2	2					○			
MG21F1S01	身体と表現			1	1	1					○			
MG21F1L07	多文化社会論			2	2	2					○			
MG22F1L08	日本の文学			2	2	2						○		
MG11F2L01	コンピュータ・ネットワーク			2	2	2		○						
MG11F2L02	データサイエンス入門			2	2	2		○						
MG11F2S01	Excel演習			1	1	1		○						
MG21F2S02	Excelプログラミング			1	1	1			○					
MG21F2L03	SNSとコミュニケーション			2	2	2					○			
MG21F2S03	動画コンテンツ制作			1	1	1					○			
MG22F2S04	ビジネスExcel実践			1	1	1						○		
MG22F2S05	ウェブデザイン			1	1	1						○		
MG22F2S06	デジタルデザイン			1	1	1						○		
MG11F3L01	経済学			2	2	2		○						
MG11F3L02	法学			2	2	2		○						
MG12F3L03	現代の経営	2	2	2			○							
MG12F3L04	マーケティング	2	2	2			○							
MG12F3L05	国際経済入門	2	2	2			○							
MG12F3L06	ビジネスマナー	2	2	2			○							
MG21F3L07	事務管理	2	2	2				○						
MG21F3L08	現代の労働法	2	2	2				○						
MG11F4P01	みんなのスポーツ	1	1	1		○								
MG11F4L01	野外活動論	2	2	2		○								
MG12F4L02	食生活と健康づくり	2	2	2			○							
MG12F4L03	人間と健康	2	2	2			○							
MG21F4L04	環境の科学	2	2	2				○						
MG22F4L05	人体の科学	2	2	2					○					
MG21F4L06	福祉スポーツ	2	2	2				○						
MG22F4L07	社会福祉概論	2	2	2					○					

区分	フィールド	ナンバリングコード	授業科目	開講	必修	選択	卒業要件単位数	学年配当			
								1年		2年	
								前期	後期	前期	後期
専門教養科目	韓国	MG11F5S01	韓国語と韓国文化 I A	1	1	1	※	○			
		MG12F5S02	韓国語と韓国文化 I B	1	1	1			○		
		MG21F5S03	韓国語と韓国文化 II A	1	1	1				○	
		MG22F5S04	韓国語と韓国文化 II B	1	1	1					○
		MG11F5S05	検定韓国語A	1	1	1			○		
		MG12F5S06	検定韓国語B	1	1	1				○	
		MG11F5P01	K-POPダンス	1	1	1			○		
		MG11F5L01	Kカルチャー論	2	2	2			○		
		MG21F5L02	K文学	2	2	2					○
		MG22F5L03	韓国社会論	2	2	2					
MG19F5P01	韓国研修S	2	2	2				○	(○)	(○)	(○)
外国語		MG11O1S01	中国語と中国文化 I A	1	1	1		○			
		MG12O1S02	中国語と中国文化 I B	1	1	1			○		
		MG11O1S03	ポルトガル語とブラジル文化 I A	1	1	1		○			
		MG12O1S04	ポルトガル語とブラジル文化 I B	1	1	1			○		
		MG11O1S05	英語と英米文化 I A	1	1	1		○			
		MG12O1S06	英語と英米文化 I B	1	1	1			○		
		MG11O1S07	英会話 I A	1	1	1		○			
		MG12O1S08	英会話 I B	1	1	1			○		
学外研修		MG19O2P01	国内研修	2	2	2		○	(○)	(○)	(○)
		MG19O2P02	海外研修	2	2	2		○	(○)	(○)	(○)
		MG11O2P03	NPOインターンシップA	1	1	1		○			
		MG11O2P04	NPOインターンシップB	1	1	1			○		
		MG19O2P05	企業インターンシップS	1	1	1		○	(○)	(○)	(○)
		MG19O2P06	企業インターンシップL	2	2	2		○	(○)	(○)	(○)
		MG19O2P07	病院インターンシップS	1	1	1		○	(○)	(○)	(○)
		MG19O2P08	病院インターンシップL	2	2	2		○	(○)	(○)	(○)
		MG19O2P09	ホテルインターンシップ	2	2	2		○	(○)	(○)	(○)
その他	MG99O3Z01	キャリア支援	8	8	8		○	○	○	○	
	他学科開放指定科目 ※2			6	6		○	○	○	○	
	小計			111	111	47					
	合計			143	16	127					

※1 専門教養科目である「心理・人間文化」「デジタル・メディア」「ビジネス」「健康・生活」「韓国」の5フィールドのうちから、あらかじめ選択した2つのフィールドにおいて、それぞれ3単位以上、合計で12単位以上を修得すること。

※2 他学科開放指定科目は、保育科・英語コミュニケーション学科が指定する授業科目及び桜花学園大学の授業科目の修得単位を6単位まで卒業要件にできる。

名古屋短期大学 教務委員会規程

(準 拠)

第1条 名古屋短期大学教授会規程第11条に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、教授会所掌事項のうち教務関係事項を審議するものとする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 教育課程および授業に関する事項
- (2) 定期試験に関する事項
- (3) 学生の成績評価、単位認定に関する事項
- (4) 資格授与に関する事項
- (5) 学籍に関する事項
- (6) 時間割編成に関する事項
- (7) 実習等に関する事項
- (8) 各学科の授業運営に係わる連絡調整に関する事項
- (9) 教授会から付託された事項
- (10) その他教務に関する必要事項

(委員の編成)

第4条 委員は、名古屋短期大学教務部長及び各科選出教員各1名ならびに教務課職員1名で構成する。

- 2 各科選出委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、名古屋短期大学教務部長を充てる。

- 2 委員長に事故ある場合は、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 委員長は、委員の3分の1以上から、又は教授会から開催の要請があった場合には、ただちに委員会を招集しなければならない。
- 3 委員会の議決は、委員の3分の2以上の賛成をもって決定する。
- 4 委員会は、委員以外の教職員または学生等から意見を聞くことができる。

(実習委員会)

第7条 委員会に、実習の実務を担当する実習委員会を置く。

- 2 実習委員会の規程は、別に定める。

(連合教務委員会)

第8条 委員会は、桜花学園大学・名古屋短期大学連合教務委員会の決定事項を、委員会決定事項として扱うことができるものとする。

(改 廃)

第9条 本規程の改廃は、名古屋短期大学教授会の議を経て行う。

(事 務)

第10条 委員会の事務は教務課が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

名古屋短期大学 F D委員会規程

(設 置)

第1条 名古屋短期大学教授会規程第11条に基づき、ファカルティ・ディベロップメント（「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」をいい、以下「FD」という。）を実施するため、名古屋短期大学FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所 掌)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を取り扱う。

- (1) FDのための基本方針の策定に関する事項
- (2) FDのための研修会等の開催に関する事項
- (3) その他FDに関する事項

(委員の構成)

第3条 委員会は、名古屋短期大学教務部長及び各学科教務委員各1名で構成する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、名古屋短期大学教務部長をもって充てる。

(会 議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- (1) 委員長は、委員の3分の1以上から、又は教授会から開催の要請があった場合は、ただちに委員会を招集しなければならない。
- (2) 委員会の議決は、委員の3分の2以上の賛成をもって決定する。
- (3) 委員長は、委員会が必要と認めるときは、他の教職員の出席をもとめることができる。

(改 廃)

第6条 本規程の改廃は、名古屋短期大学教授会の議を経て行う。

(事 務)

第7条 委員会の事務は、学務部が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

名古屋短期大学 教務委員会規程

(準 拠)

第1条 名古屋短期大学教授会規程第11条に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、教授会所掌事項のうち教務関係事項を審議するものとする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 教育課程および授業に関する事項
- (2) 定期試験に関する事項
- (3) 学生の成績評価、単位認定に関する事項
- (4) 資格授与に関する事項
- (5) 学籍に関する事項
- (6) 時間割編成に関する事項
- (7) 実習等に関する事項
- (8) 各学科の授業運営に係わる連絡調整に関する事項
- (9) 教授会から付託された事項
- (10) その他教務に関する必要事項

(委員の編成)

第4条 委員は、名古屋短期大学教務部長及び各科選出教員各1名ならびに教務課職員1名で構成する。

- 2 各科選出委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、名古屋短期大学教務部長を充てる。

- 2 委員長に事故ある場合は、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(会 議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 委員長は、委員の3分の1以上から、又は教授会から開催の要請があった場合には、ただちに委員会を招集しなければならない。
- 3 委員会の議決は、委員の3分の2以上の賛成をもって決定する。
- 4 委員会は、委員以外の教職員または学生等から意見を聞くことができる。

(実習委員会)

第7条 委員会に、実習の実務を担当する実習委員会を置く。

- 2 実習委員会の規程は、別に定める。

(連合教務委員会)

第8条 委員会は、桜花学園大学・名古屋短期大学連合教務委員会の決定事項を、委員会決定事項として扱うことができるものとする。

(改 廃)

第9条 本規程の改廃は、名古屋短期大学教授会の議を経て行う。

(事 務)

第10条 委員会の事務は教務課が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

名古屋短期大学 F D委員会規程

(設 置)

第1条 名古屋短期大学教授会規程第11条に基づき、ファカルティ・ディベロップメント（「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」をいい、以下「FD」という。）を実施するため、名古屋短期大学FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所 掌)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を取り扱う。

- (1) FDのための基本方針の策定に関する事項
- (2) FDのための研修会等の開催に関する事項
- (3) その他FDに関する事項

(委員の構成)

第3条 委員会は、名古屋短期大学教務部長及び各学科教務委員各1名で構成する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、名古屋短期大学教務部長をもって充てる。

(会 議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- (1) 委員長は、委員の3分の1以上から、又は教授会から開催の要請があった場合は、ただちに委員会を招集しなければならない。
- (2) 委員会の議決は、委員の3分の2以上の賛成をもって決定する。
- (3) 委員長は、委員会が必要と認めるときは、他の教職員の出席をもとめることができる。

(改 廃)

第6条 本規程の改廃は、名古屋短期大学教授会の議を経て行う。

(事 務)

第7条 委員会の事務は、学務部が行う。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

大学等名	名古屋短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	名古屋短期大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

プログラムの目的

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、デジタル社会の基礎的な素養としての能力を養成する。

身に付けられる能力

課題や目的に応じて、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識を基に情報を収集・分析し、人間や社会への深い洞察力と情報モラル・情報セキュリティの理解をもって、課題を解決するために自己の見解を適切に発信・伝達できる実践的な能力を身につける。

開講されている科目の構成

保育科：情報処理演習Ⅰ（2単位）

英語コミュニケーション学科：パソコン演習Ⅰ（1単位）、パソコン演習Ⅱ（1単位）

現代教養学科：データサイエンス入門（2単位）

修了要件

プログラムを構成するから、2単位以上取得すること。

実施体制

プログラムの運営責任者：教務部長

プログラムを改善・進化させるための体制/プログラムの自己点検・評価を行う体制：名古屋短期大学教務委員会、名古屋短期大学FD委員会